

創刊110周年記念

誇れるふるさと

24地区リレー

〈vol.12〉

〈万倉② 課題とキーマン〉

大きな課題として挙げられるのは、農山村地域特有の過疎化や高齢化による農業の担い手不足。そんな中、西万倉の楠こもれびの郷では、農業による利益を上げ、担い手不足の改善に取り組んでいる。



温泉と農業の交流施設として地域に愛される楠こもれびの郷

農林業振興へ楠こもれびの郷に期待

楠地域の農林業振興と地域の活性化、都市部と農村の交流促進など、宇部市北部での連携を目的として2009年8月5日に開設。温浴施設、農産物直売所、農家レストランから成り、楠村づくり（武波博行社長）が運営している。

都市部との交流促進、新規就農支援も

10年に農業研修交流施設の万倉塾が開所。農業に関する情報発信基地として、地元農業の活性化を目指す、新規就農のための研修や就農支援も行う。11年にはくすのき農産物加工所の運営を市から委託され、12年に古民家を活用して開始した。

元楠町長でもある武波社長は「将来担い手となる人を受け入れ、農業体験してもらっている。農業という産業を守っていききたい」と、農業と温泉を併せ持った交流施設に期待を懸ける。市の伝統工芸品である赤間硯（すずり）、県指定民俗無形文化財の岩戸神楽舞などの情報発信で、交流人口の増加を図っている。

同地区コミュニティー推進協議会などの地域団体は隣接する万倉ふれあいセンターで、さまざまなイベントを開催。恒例の「つつじまつり」では、2500株ものつつじが咲き誇る中、地域住民によるステージイベントが行われる。「どろんこソフトラレー大会」も市内に浸透し、毎年、参加者の元気な声が響き渡る。

同協議会は移住促進策として、利用可能な空き家の掘り起こしや移住希望者とのマッチングなどを行い、人口減少に歯止めをかけようと努めている。